



3学期がスタートしました

具体的に動いて2022年を素敵な年に…

3学期のスタートは、あいにくの雨模様。それでも、朝元気にあいさつを返してくれるみなさんと出会うと、うれしい気持ちになると同時に「あぁ、始まったな…」という実感をもつことができました。登校するのはたった50日（土、日、祝を除く）ほどの3学期ですが、今のクラスの仲間との最後の日々になります。一日一日を大切に過ごしていこう。

始業式の話の中で、元テニスプレーヤー松岡修造さんの日めくりカレンダーの言葉をいくつか紹介しました。私が特に共感するのは「トンネルから抜け出せ！動いて、動きまくれ！」という言葉です。書道家であり、詩人でもある相田みつをさん（今から30年ほど前に亡くなられた方です）の言葉にも、「アノネ がんばらなくてもいいからさ 具体的に 動くことだね」「ひとつひとつ かたず（づ）けてゆくんだね 具体的にね」というものがあります。

悩んだり、迷ったりしてしんどいときって、何もやる気がしなかったり、何をしたいのかわからなくなったりするのはよくあることです。これはおとなでも一緒。そんなときほど、簡単なことからでも一つずつ具体的に動いていくと、だんだん気持ちが軽くなっていき、調子が出てきたり、アイデアが浮かんだりする、ということは私も何度か経験しました。体と心は連動しているので、体が固まると心も固まり、体が動き出すと心もほぐれてくるんだと思います。



2年生学年レク(12月24日)

もし、何かに行き詰まったら、とにかく動いてみてください。

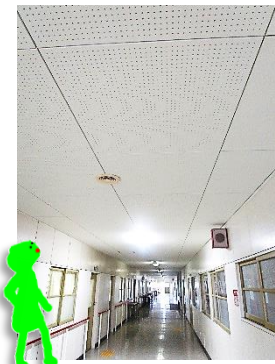
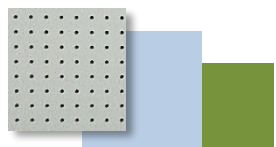
2022年がみなさんにとって素敵な一年になりますように！

見上げてみよう 4階の天井を…

2年生の人は気づいてくれたでしょうか？

この冬休みに、本館4階の天井、つまり2年生のフロアの天井が全面リニューアルしたのです！4階の天井は、おそらく創立以来36年間の年月の中で、屋上からしたり落ちた雨水がしみ込んだのでしょう。一部ふやけたようになっていました。また、何らかの事情で天井に穴が開き、それを紙を貼って修理した跡も何か所もありました。

とはいえ、十八中の校舎は、36年という年月の割にはきれいな状態がキープされています。歴代の生徒、教職員の努力のたまものです。みなさんも、きれいな学校をきれいな状態のまま、未来の十八中生に引き継ぐことを心がけてください。



学校図書館大集合

12月24日終業式の日、ルシオーレにある蛍池図書館に行ってみると、図書館前の壁面に「学校図書館大集合」というコーナーが設置されていました（本日12日まで）。

近隣の小中学校の学校図書館を楽しく紹介するコーナーです。十八中も図書委員会の活動などが目に見え楽しく紹介されていました。（写真）

始業式の日、十八中図書館に行ってみたら、新着本コーナーに面白い本が置いてありました。「絶滅危惧動物図鑑」（藪本晶子著）です。「最近、あの“動き”しなくなったね。」という動作を、5段階の絶滅度で紹介しています。

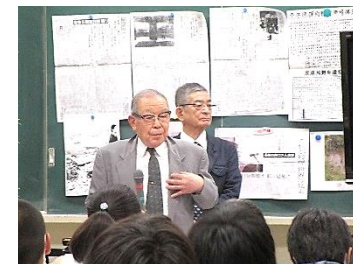
「お風呂をかき混ぜる」「うさぎ跳び」（絶滅レベル5）、「ラジカセで音楽を聴く」（絶滅レベル3）など、「昔やってたなあ…」と思いがよみがえってくる動作が多く、面白かったです。本に載っていないオリジナルの絶滅危惧動作を考えるのも楽しいです。

「小説を読むのが苦手」という人も、友だちと一緒に見て楽しむ本もたくさん置いてあるので、ぜひ十八中図書館を一度のぞいてみてください。



原爆被害者の会の伊達さんからお手紙がきました

1学期に長崎の原爆体験を語ってくださった伊達昭夫さんから、感想文のお礼と「生徒の感想文の中にあつた質問に答えます。」というお手紙をいただきましたので、紹介します。



原爆体験を話される伊達さん(7月13日)

Q：ツルやクキをいためたものを食べていたと聞きましたが、どのような味でしたか？

A：戦争中、戦後に食べていた芋は「農林1号」といって、収穫量が多くまずい芋で、収穫時にとれるツルやクキもまずく、お腹を満たすために食べていました。現在の芋は甘く（安納芋、紅はるか）、ツルやクキは栄養価の高い食材で芋の収穫時には、お店で売られています。

Q：B29が原爆投下後、再び飛んできたときは、どのように思いましたか？

A：原爆投下後の8月10日の朝に飛来した飛行機は小型の偵察機でした。被害状況を撮影したと思います。それを見たときは初めて怖いと思いました。これだけ多くの人を殺しておきながら、ケガをしている母、姉まで殺すのかという憤りと、自分も殺されるという恐怖を感じました。

Q：死体を乗り越えなければいけない時、どのような心境だったのですか？

A：私たちは軍により洗脳されていたのか、死体を見ても怖いとは思いませんでした。ただ、爆弾で亡くなられた人乗り越えるときは、すまない気持ちでした。